

今夏24年ぶりに四国で開かれる全国高校総体（インターハイ）の徳島県予選を兼ねた第62回県高校総体体育大会（県教委、県高体連主催、徳島新聞社後援）第2日は4日、各地で25競技が行われ、12競技で団体優勝校が決まった。柔道男子は阿波が9大会連続22度目、女子は生光学園が2大会連続3度目の優勝。剣道男子は阿南光が初制覇、女子は富岡東が8大会連続36度目の頂点に立つ

第62回 県高校総体

第2日

た。レスリング男子は、池田が6大会連続18度目の栄冠に輝いた。テニス男子は城南が19大会連続24度目、女子は徳島商が5大会連続13度目のV。フェンシング男子は徳島文理が初、女子は城ノ内が19大会連続26度目の優勝を果たした。重量挙げ男子は鳴門渦潮が3大会ぶり4度目、新設された女子は板野が初代王座に就いた。ライフル射撃女子チームライフルは阿南光が初優勝した。

阿波男子 22度目V

女子は生光学園連覇

柔道

（鳴門）シヨウ武蔵館

『女子』団体 戦 徳島北2
○ 優勝
▽ 決勝

生光学園 2-1 徳島北

○ 米村 小外掛 矢野	○ 齋藤 一本背 香川
○ 豊後 賢 中野	○ 阿波 豊 中野

大将 貫禄の一本

○：「勝1敗で後がなくなった生光学園女子には頼れる大将がいた。4月の全日本女子選手権に大会最年少で出場した牛方は安定した寝技で一本勝ちし、貫禄を示した。

「勝ち方にこだわって戦おう」。伊田監督の激励を受け、先鋒の木村は相手の重心が後方に移った機を逃さず小外掛けで一本勝ち。しかし、中堅

の齋藤が一本負けを喫し「くの字」に曲げて上体の「本立」を立ち技で勝ち、迎えた大将戦。牛方と足を抑え込み、横四方固めで勝利した。全国出場を決めたものにとどめて、県総体優勝は通と気合を入れ直した。

過点に過ぎない。木村は「攻める柔道で次の四国選手権でも優勝したい」



女子団体決勝・生光学園対徳島北 大将戦で積極的に技をかける生光の牛方（右）